

1923(大正 12)年～2019(令和元)年

1. 経歴・狭山市との関わり



1923(大正 12)年、入間郡豊岡町高倉(現・入間市)に新吉とさだの次男として誕生する。1929(昭和 4)年、豊岡尋常高等小学校(現・入間市立豊岡小)に入学するが、病弱のため読書することが多かった。

1935(同 10)年、学校組合立豊岡実業学校(現・県立豊岡高校)に進学すると文芸部を結成、同人誌『まんけんぼん』を創刊する。その頃、夏目漱石の『草枕』や島崎藤村の『千曲川のスケッチ』、徳富蘆花の『自然と人生』、樋口一葉の『たけくらべ』を読み、文学に憧れを抱く。1941(同 14)年、中央大学法学科(現・法学部)二部に入学するが、1943(同 18)年 9 月に繰り上げ卒業し、2 年間兵役に就く。

1947(同 22)年、会社を設立するが、2 年で倒産。その後、職を転々とする。1948(同 23)年、小説家の福田清人・石森延男・浜田広介に師事、『文学集団』に作品を発表。1950(同 25)年、東金子村(現・入間市)立東金子小学校に奉職し、地元の小学校に長年勤務。1955(同 30)年、日本児童文芸家協会の創立に参加。教職員の同人誌『文芸広場』に小説や評論、童話を発表する。

1961(同 36)年、長男(3 歳)の死をきっかけに児童文学を書き続けることを決意した。

1975(同 50)年、新設された新狭山小学校の初代校長として同校の基礎を築く。そして、校歌(荻久保和明作曲)を作詞するなど、国語教育に力を入れ、児童や教職員にも大きな影響を与えた。また 1981(同 56)年、中央図書館発行『文芸狭山』の創刊に大きく尽力、編集・選考委員に就任して優秀作品を選評し、現・『市民文芸さやま』の発展の土台を造った。2019(令和元)年逝去する。享年 96。

2. 主な業績

- ・ 1961 年：『プリズム村誕生』で講談社児童文学賞を受賞
- ・ 1964 年：『夜なんかきえろ』で現代少年文学賞を受賞
- ・ 1966 年：『青いスクラム』で小学館児童出版文化賞を受賞
- ・ 1969 年：『文芸埼玉』の埼玉文芸賞選考委員に就任
- ・ 1971 年：国語・日本語教育部門に関する活動で博報賞を受賞
『夜なんかきえろ』で現代少年文学賞を受賞
- ・ 1989 年：日本児童文芸家協会理事長に就任(～1993 年)



3. 特筆

児童文学者と初等教育者の二足の草鞋を履きながら、傑作を発表し続けた。作品の多くは幼少期を過ごした武蔵野の風土を反映し、自然と子どもを結ぶ作品にまとめる。趣味は自然に親しむことで、家族や同僚と蝶ヶ岳や槍ヶ岳、白馬岳、西穂高岳、薬師岳などに登った。

〈参考資料〉『文芸入間第 45 号』『イーハトーヴへの旅』『埼玉文学辞典』『現代日本児童文学作家事典』